

「ヨブ記講解(1)」2022.1.30

説教:イ・スジン牧師

本文:ヨブ記1:1-7

きょうは「ヨブ記講解」最初の時間で、ヨブの心の出来と彼が受けた祝福、そしてサタンの正体について調べてみます。

多くの人々がヨブについて誤解しています。「神様は潔白で正しいヨブを何の理由もなく試練に合わせられた。ヨブは苦しみを受けたが、最後まで耐え忍んで倍の祝福を受けた。だから、私たちが試練に会ったとき、神様の答えの時に黙々と耐えて待っていればいい」と教えます。

しかし、愛であり、善であられる神様が、どうして理由なしに人に苦しみを受けさせるのでしょうか。神様はヨブが霊の信仰へと発展できなくて停滞していたので、試練に会うようにされたのです。試練を通して本性の中の悪が現れて、結局、徹底的に悔い改めて、ついに霊の信仰に入るように導いてくださったのです。神様は、ヨブの例を通して私たちが自分の問題を発見して解決できる道を教えてくださり、祝福される方法も教えてくださっています。

ヨブ記講解をよく糧とすれば、自分は肉の人なのか、御霊の人なのか見分けることができるだけでなく、御霊の人に変えられる方法もわかるでしょう。したがって、「ヨブ記講解」を聞きながら自分の心をさらに深く発見して、霊的に成長しますように。

1. 潔白で正しく、神を恐れていたヨブ

ヨブ記1章1節に「ウツの地にヨブという名の人がいた。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」とあります。

「潔白」とは、国語辞典では「心や行いがきれいなこと。後ろ暗いところがないこと。」と定義されています。しかし、神様が言われる霊的な意味の潔白とは「きよい心の中に御霊の実がぎっしりある状態」です。

ヨブはこのように完全に潔白な状態ではありませんでした。父なる神様がご覧になるとき完全ではなかったのですが、それでも良い心で柔和な行いを誠実に実践していたので、潔白だと認めてくださったのです。

次に、神様はヨブを「正しい」と言われました。

世の人々は、嘘をつかないで、人をだまさないで、信用を守る人を正しいと言います。つまり、人はうわべを見て「正しい」または「正しくない」と言うのです。

しかし、神様は心をご覧になります。神様が認めてくださる正しさは「人をだまさないだけでなく、自分自身も欺かないこと」です。自分自身を欺かない人ならば、人をだますことはないし、失礼なことをするはずもありません。人との約束はもちろん、自分自身との約束も必ず守るのです。

心の中で「こうしよう」と自分と約束しただけで、誰にも話さなかったとしても、移り変わらないでそのまま守る人を、神様は正しいと言われます。ヨブはこのように正しい人だったのです。

また、ヨブは神を恐れる人でした。

神様を恐れる人なら、決して真理から外れることをしないでしょ。箴言8章13節に「【主】を恐れることは悪を憎むことである。」とあるとおり、悪はどんな悪でも避けていきます。ついに悪はどんな悪でも避けて心を変えれば、罪を犯さなくなるから恐れもなくなって、神様を心から愛するようになります。ですから、より深い恐れとは、怖がって恐れるのではなく、愛して聞き従う段階です。

イエス様は神様を恐れかしこみ、敬われたので、そのとおりに聞き従ってご自分を犠牲にされました。旧約の預言者たちやイエス様の弟子たちも神様を恐れかしこんだので、自分を完全に無にして神様のために献身することができました。

私たちも神様を恐れて悪から遠ざかり、さらに神様を深く愛して、いのちもささげることのできる従順の人になりますように。

2. ヨブが受けた祝福

本文にヨブについて「神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」とありますが、これは本性の中の悪まで全部捨てたという意味ではありません。自分で悟れた悪は行わなかったし、最善を尽くして善を追い求めた、ということです。

このように神様から潔白で正しいと認められ、そうして神様を恐れて悪から遠ざかっている人は器が大きいと言えます。たましいに幸いを得ているだけに肉的にも祝福される器を備えていたのです。

ですから、ヨブは神様に大いに祝福されて、「東の人々の中で一番の富豪であった」と記されるほどでした。子どもと物質、健康、その他多くの祝福を受けていたのです。また、ヨブは心遣いや心の器の出来も良くて、人に尊敬されるような基本条件を備えた人でした。

ヨブが受けた祝福には家庭の平和もあります。

ヨブ記1章4節に「彼の息子たちは互いに行き来し、それぞれ自分の日に、その家で祝宴を開き、人をやって彼らの三人の姉妹も招き、彼らといっしょに飲み食いするのを常としていた。」とあります。ヨブが潔白で正しい人だったので、子どもたちも互いに仲が良かったということがわかります。一家の長であるヨブが手本になっていたので、自然に子どもたちも父を見ならって、平和をつくっていたのです。

ところが、ヨブの子どもたちの兄弟愛と平和は肉的な愛であり、肉的な平和でした。これは、ヨブの子どもたちが宴会を開いたら、ヨブが「彼らと呼び寄せ、聖別することにしてた。彼は翌朝早く、彼らひとりひとりのために、それぞれの全焼のいけにえをささげた。」ことからわかります。

ヨブの心の片隅には、子どもたちのことで不安と悩みがあったのです。子どもたちが神様を恐れかしこんでいなかったからです。それで、もしかして子どもたちに神様の前にふさわしくない姿があったのではないかと心配で、全焼のいけにえをささげて罪をきよめられるようにしたのです。

聖霊が来られる前である旧約時代に生きていたので、子どもたちのために全焼のいけにえをささげる行いによって罪が赦されたのです。

このようなヨブの行いがいつも変わらなかったのも、ヨブが実に潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた人であったかがわかります。

3. サタンの正体

ヨブ記1章6節に「ある日、神の子らが【主】の前に来て立ったとき、サタンも来てその中にいた。」とありますが、ここで「神の子ら」とは、「イエス・キリスト」と「聖霊様」を指しています。

では、神様はどんな汚れもない聖なる方なのに、どうやって悪いサタンがその前に来ることができたのでしょうか。これは、実際にサタンが神様のおられる天国に入って、その前に立っていたということではなく、神様がサタンとの会話をお許しになったという意味です。

サタンも霊なので、神様のお許しがあるなら霊を通して交わり、話すことができます。神様がサタンに「おまえはどこから来たのか。」と聞かれると、サタンは「地を歩き回り、そこを歩き回って来ました。」と答えます。サタンは食い尽くすべきものを捜し求めながら歩き回って、神様の前に訴えに来たのです(第一ペテロ5:8)。

神様のみことばどおりに生きていない人は、すでに敵である悪魔に属しているので、サタンが目をつける必要がありません。ヨブのように信仰があり、潔白な人でも、何としてでも倒そうと狙っているのです。

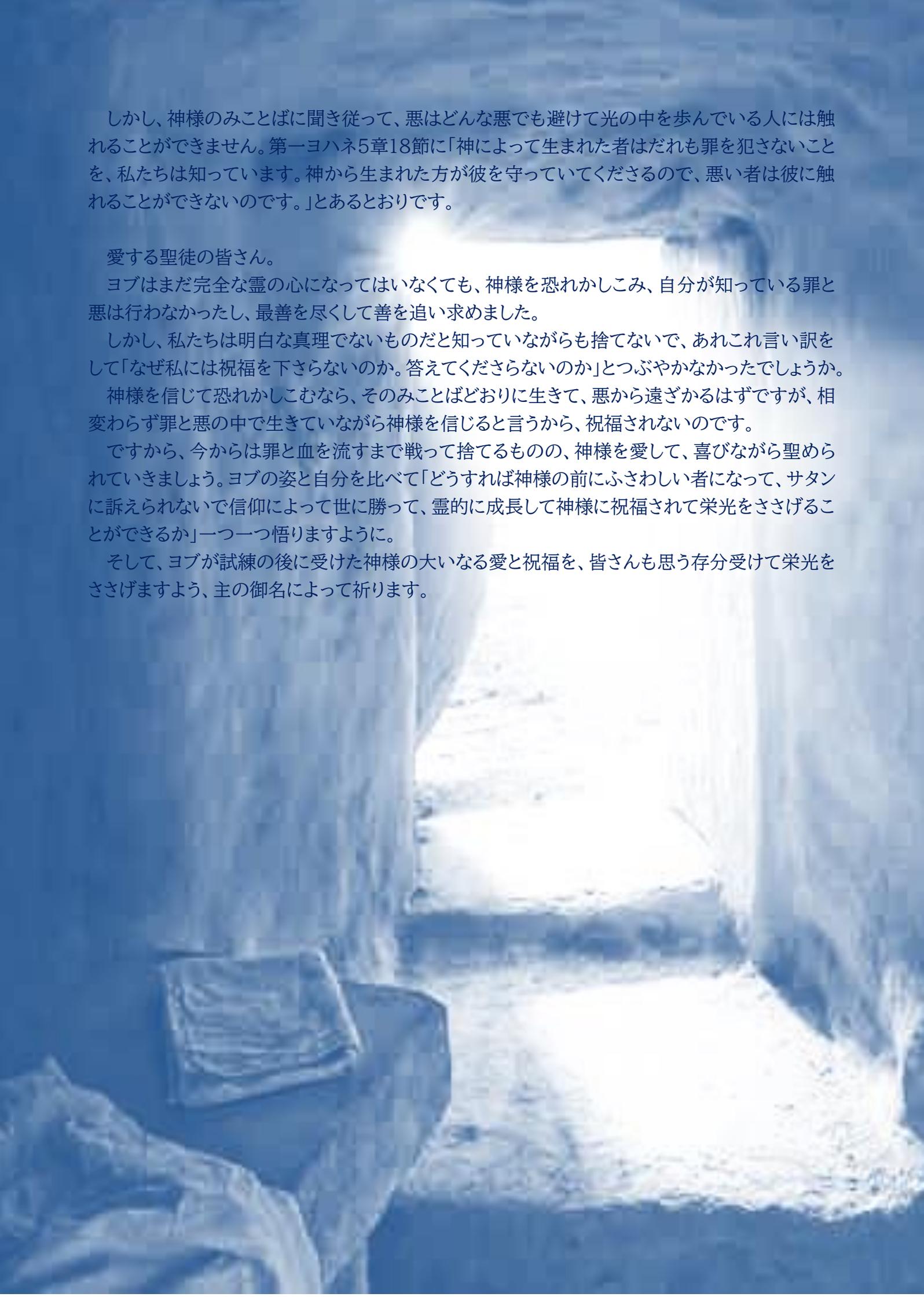
サタンとは、一言で言うならルシファーの心です。人の思いを通して働く存在で、実質的な形はありません。サタンはルシファーが持っている闇の力をそのまま持って、人々が悪い思いと心を持つようにして、悪を行うようにします。

サタンはまるで空中に飛びかっている電波のように、その心と力を続けて空中にまき散らします。電波が受信アンテナに会えばすぐ接続するように、サタンがまき散らしておいた闇の心と思いと力も、それを受け入れる準備ができた人々に働きます。この時、受信アンテナの役割をするのが人の心の中にある闇、すなわち真理と反対のものです。

たとえば、心の中に憎しみの属性があるとすると、それがサタンが空中にまき散らしておいた憎しみという電波を受け入れる受信アンテナの役割をします。サタンがまき散らしておいた闇の電波と、人の心にある真理と反対のものというアンテナの周波数が合うと、サタンは思いを通して直ちに闇の力を吹き込みます。

これによって真理と反対の心が強くなれば活動し始めるのですが、これを「サタンのしわざを受けた」または「サタンの声を聞く」と言います。このようにサタンの声を聞くと、思いを通していろいろな罪を犯し、行いでも罪を犯すようになります。

サタンは、人が真理から離れて罪を犯したり、真理に逆らったりしているとき、日夜神様に訴えています。神様は霊の世界の法則によって正しく治められるので、神様がご覧になって真理と反対のことは行えば、敵である悪魔・サタンを通して試練に合わせられるしかありません。敵である悪魔・サタンは、人が罪を犯して生きている分だけ神様の前に訴えて、試練、患難をもたらして思いのままに操っていきます。



しかし、神様のみことばに聞き従って、悪はどんな悪でも避けて光の中を歩んでいる人には触れることができません。第一ヨハネ5章18節に「神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守っていてくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。」とあるとおりです。

愛する聖徒の皆さん。

ヨブはまだ完全な霊の心になってはいなくても、神様を恐れかしこみ、自分が知っている罪と悪は行わなかったし、最善を尽くして善を追い求めました。

しかし、私たちは明白な真理でないものだと知っていながらも捨てないで、あれこれ言い訳をして「なぜ私には祝福を下さらないのか。答えてくださらないのか」とつぶやかなかったでしょうか。

神様を信じて恐れかしこむなら、そのみことばどおりに生きて、悪から遠ざかるはずですが、相変わらず罪と悪の中で生きていながら神様を信じると言うから、祝福されないのです。

ですから、今からは罪と血を流すまで戦って捨てるものの、神様を愛して、喜びながら聖められていきましょう。ヨブの姿と自分を比べて「どうすれば神様の前にふさわしい者になって、サタンに訴えられないで信仰によって世に勝って、霊的に成長して神様に祝福されて栄光をささげることができるか」一つ一つ悟りますように。

そして、ヨブが試練の後に受けた神様の大きい愛と祝福を、皆さんも思う存分受けて栄光をささげますよう、主の御名によって祈ります。